



神奈川支部報

神奈川支部報 第 19 号

発行日：2021年7月1日

発行者：込田伸夫

発行所：公益社団法人日本山岳会神奈川支部

横浜市青葉区若草台 2-58 込田方



令和3年度支部総会開催される

5月22日(土) 10:00~11:30、横浜駅西口に「かながわ県民センター」において令和3年度神奈川支部総会が開催された。

決議事項

- 第1号議案 令和2年度事業報告
- 第2号議案 令和2年度会計報告
- 第3号議案 令和3年度事業計画案
- 第4号議案 令和3年度予算案。

総会への出席者は23名(込田支部長除く)。
議決権行使有資格者：147名 委任状 54名、
議決権行使による賛成5名 合計82名で過半数を超えているので、総会は成立。4件の議案

について審議の結果、すべての議案は全会一致で承認された。

また総会時に令和2年度経費で購入した神奈川支部員のウインドブレーカーのお披露目があった。(集合写真のブルーのウインドブレーカー)

丹沢周辺の渡来人の足跡（1）

和田誠一

丹沢とその周辺には“丸”の付く山が多い。東丹沢には榛ノ木丸、春ノ木丸、ヌタノ丸、上ノ丸、大丸、小丸など。西丹沢には檜洞丸、畦ケ丸、シャガクチ丸、裸山丸、大タル丸、中ノ丸、ブナノ丸、東丸、西丸、椿丸など見られる。道志山塊には入道丸、岩下ノ丸、城ケ丸、マコゼンノ丸（御正体山）。陣馬山・高尾山周辺には醍醐丸、茅丸、杉ノ丸、さらに大菩薩山塊に目を向けると鎮西ガ丸（滝子山）、コンドウ丸、大谷ケ丸、ハマイバ丸、大蔵高丸、白谷丸、赤岩ノ丸、高ノ丸等々などがある。

なぜこの地域の山名に“丸”が付く山が多いのか。これらの全ての山頂が丸いとは限らない。その語源を調べて見ると“丸”は古代朝鮮語に起因するという説にたどり着く。かつて「かながわの山」（かもめ文庫）、「かながわ山紀行」

（同文庫）の著者・故植木知司氏を伴って韓国を旅行した折り、韓国の私の友人に植木さんが「日本には山名にマルと付く山があるが、韓国ではどうか？」と質問した。質問された友人は「あれがマルですヨ・・・」と言って屋根の棟を指さして応えていたことを思い出す。辞書を引いても「マル」とは山の背とか、屋根の棟など高い所を指す言葉として今でも使われていた。

また韓国の山名に「マル」と付く山はないが、韓国山岳会の会歌の二番の歌詞の冒頭で「산=サン(山) 마루=マル(峰) 로=に 오르자, =オルジャ(登ろう)」と「マル」が声高らかに歌われている。

日本でも城の本丸、二の丸、三の丸、或いは咸臨丸、日本丸のように船の名前、さらに牛若丸、日吉丸のように子供の成長を祈った幼名などにも使われている。

山麓に住む民にとって山は神の住む所として崇拜の気持ちでみていたのだろうか。丹沢周辺の朝鮮半島からの渡来人について手元の文献から探っている。

まず表丹沢の「秦野」の地名である。平成10年に開催された神奈川国体で山岳競技の会場になった秦野市が発行し、全国から来た選手、役員にお土産として配った「丹沢 山のものがたり」に「秦野における人の痕跡は、1600年

산악인의 노래

이은삼 작사
김동진 작곡

(한국산악회가)

2. 산 마루로 오르자 산마루로 오르자
운갓 고난 박차고 저 산마루로 오르자
천지가 운몽 내눈아래
우주의 섭리 한 가슴에
위치:는 아-호 울리는 아-호
산과 나 둘이 아니다 나와 산 하나가 되다

韓国山岳会の会歌

前（先土器時代）に遡るとされ、縄文・弥生時代の遺跡もあるが、盆地がひらかれていくのは、古墳や住居跡などから、古墳時代の末ころ（六～八世紀）といわれている。この開発には、渡来人の「秦氏」が中心となって携わり、これが「秦野」の地名の由来になったと伝えられている。」とある。また平安時代中期の「和名類聚抄」に相模国余綾郡幡多郷の地名があり、渡来人の秦氏が居住していたことの証である。

同じ秦野市が発行している「秦野市史」にも「秦氏より秦野という地名が起ったという説である。秦氏は渡来系の氏族である。東国に渡来系の人々が居住していたことは、靈龜二年（七一六）五月に相模など七か国の高麗人一七九九人を武蔵の国に移住させ、新たに高麗郡を設置したという記事の存在によって、それ以前にすでに居住していたことがわかる。古くから相模の地方に渡来系の人々が居住していたことは確かである」とある。

また江戸時代に編纂された「新編相模国風土

記稿」に「唐子明神社、村の鎮守なり、神軀は木像、縁起に昔唐土より飛来せし神なるを以つて、唐子明神と號す」とある。

唐子明神社は現在の加羅古神社で、三ノ塔山麓の横野にあって静かな佇まいを見せている。



「加羅古神社 秦野市横野

吉田東呉編日本初の全国的地誌【大日本地名辞書】の記述には「・・・秦野地方には迦羅子、唐子と称する神社多し。その最によるも著しきは、中郡北秦野村字横野に鎮守して、神体は木像なれど極めて奇なる形なり。また石を神体とする風習については、多少縁起を異にすれども、多くは迦羅国より来れるものなりと伝う・・・」とある。

県岳連定期代議員会議開催される

令和3年5月22日。神奈川県山岳連盟の代議員大会が平塚駅前のスペースで開催された。傘下の各協会から選出された代議員 名により理事会から提出された議案の審議が行われた。

現在の県岳連の大きな課題は、増加するスポーツクライミングへの対応をどのようにしていくかという課題と、県岳連の法人化へ向けての定款の制定である。

神奈川支部からも込田支部長、砂田の2名が代議員として出席し、審議にあたった。

スポーツクライミングの課題は今まではアルパインの人がスポーツクライミングの指導を担ってきているが、将来的にどのようにしていくのがよいかという点。スキー競技のように将来は山岳から独立していく方向も見据えて岳連の中で対応していくことになる。

もう一つは法人化に関しては新法人の定款

の内容について、反対意見もあり、採決の結果賛否同数となり、議長判断で承認になった。法人化にあたって、県岳連を構成する会員の考え方を各地区の山岳協会から個々の山岳会にするという案に、地区山岳協会から地区の協会の力が落ちる懸念があると発言があった。神奈川支部の立場としては岳連直轄の団体のため特に支障はないが、岳連理事会として今後の検討が求められることになりそう。



神奈川岳連定期代議員会の様子

令和4年全国支部懇談会の担当となる

令和4年に実施予定の全国支部懇談会が神奈川支部で開催されることで話が進んでいる。支部懇談会は全国のJAC会員が集まり、交流を図るもので200人程度の参加が見込まれる。神奈川県には丹沢や箱根といった登山エリアもあるが、移動がしやすいこと、どなたでも歩けるコースが必要ということで、現在、横浜市南部の丘陵地（大丸山、鎌倉アルプスなど）を候補として検討中。実施は令和4年の10月が候補として挙げられている。

支部懇談会の実施には支部会員の皆様の協力も必要となります。積極的な参画をお願いいたします。

山岳古道プロジェクト報告（第1回）

全国山岳古道プロジェクトでは、北海道から沖縄まで200余の古道が推薦され、そのうち第一次調査対象古道として59古道が選出されました。神奈川支部管内では支部内外から十数件の推薦がありましたがその中から、1.大山

をめぐる道（大山修験行者道・参拝路、八菅修験行者道を含む）2.箱根旧街道 3.足柄古道の3件が選ばれました。今後は、支部内の調査体制を整備して本部、関係支部等と打合せしながら調査を進めていくこととなります。プロジェクトの進捗状況等については都度報告していく予定です。（担当/葉上徹郎）

山行報告

かながわ山岳誌 Lコース

衣張山・披露山

令和2年12月12日

大船駅からバスに乗り、半僧坊下バス停で下車。ここは、鎌倉アルプス北側の住宅街。ここから、ほんの少し登ると、鎌倉アルプス縦走路に簡単に到着してしまった。今回は、縦走路を横断し、南側の覚園寺方面に下っていく。

その後、鎌倉宮から滑川沿いの住宅街を歩いていく。滑川沿いのモミジの紅葉が最盛期を迎え、目を見張った。やがて、衣張山への登山道となり、頂上に到着する。ここからは、相模湾や稲村ヶ崎が望めた。残念ながら、富士山や丹沢は、薄らと目を凝らしてようやく見える程度だった。

衣張山から下っていくと、住宅街に出てきたが、その一戸建住宅街に隣接する鎌倉市子ども自然ふれあいの森で遭遇したモミジの紅葉が印象的だった。先程の滑川での紅葉と言いつつ、今回、鎌倉の紅葉は12月に入ってからという事を痛感した。

さらに南下していき、名越の切通の途中で、まんだら堂やぐら群がちょうど公開期間中だったので、中に入り、散策する。ここは、イチョウの黄葉が見頃だった。

その後、住宅街をさらに南下していき、披露山に到着。展望台から富士山、丹沢方面を望むが、霞んでしまい、全く見えなかった。また、披露山には、三角点がある筈なのだが、見つからず、スマホで調べてみたら、なんと頂上広場に埋まっていることがわかり、写真撮影を諦めた。

披露山の北側は住宅街だったのだが、南側

は、まだ自然のまま、樹林帯の中を下り、海岸線に出てきた。潮の香りを味わいながら、ゴールのJR逗子駅へと向かった。（記：永井泰樹）

コースタイム：半僧坊下BS(9:22)～(9:36)鎌倉アルプス十字路～(10:06)鎌倉宮(10:15)～(11:03)衣張山(11:17)～(11:46)鎌倉市子ども自然ふれあいの森(12:24)～(13:02)まんだら堂やぐら群(13:23)～(13:24)名越第2切通～(14:08)披露山公園(14:26)～(14:44)高養寺(14:54)～(15:26)JR逗子

参加者：早川正志、込田伸夫、森武昭、砂田定夫、石村日満子、富岡一郎、廣島孝子、吉澤平治、高井紀栄、丸山さかえ、稲垣哲郎、國清喜美子、大字進、藤川智恵子、関口由美子、中島良行、永井泰樹。以上17名

かながわ山岳誌 Hコース

峰山

令和3年3月27日

奥牧野でバスを降り、車道を西に歩き木製のつり橋を渡る。荒れた舗装路を歩き車道に合流する。峰山への分岐を見送り綱子川を渡渉する。ここから登山道が始まるが、廃道同然で途中から踏み跡がわからない。急登の斜面をよじ登る感じで尾根に乗り大平山に到着。尾根伝いに歩くがアップダウンがきつい。綱子峠を過ぎると整備された道となり入道山、平野峠へと歩く。平野山を確認し道標の無い尾根道を天神峠まで下る。所々薄紫色のタチツボスミレが咲いている。峠から舟山まで標高差100m程登るが、頂上からトラロープがずっと下がっている。これに捕まりながら急斜面を登りやっと頂上に着くが、かなり体力を消耗した。

舟山から北東方向へ尾根を下り鞍部に着くと、南側は碎石のため崖になっている。鞍部から続く尾根は水平で天国のような尾根道だ。峰山へのきつい階段を登り山頂に到着。古峯神社に参拝してやまなみ温泉BSへ下り、バスで藤野駅に戻る。（記：田島剛）



↑ 峰山山頂

コースタイム：奥牧野 BS(9:00)～(10:35)大平山(10:43)～(12:03)入道丸(12:33)～(12:46)平野峠～(12:53)平野山(12:59)～(13:03)平野峠～(13:43)天神峠(13:50)～(14:06)舟山(14:16)～(15:18)峰山(15:30)～(15:59)やまなみ温泉
 参加者：永井泰樹、森武昭、大槻利行、五十幡広樹、五十幡愛子、中島良行、本村光昭、田島剛 以上8名

嵐山

令和3年4月10日

二度目の緊急事態宣言解除後の、久しぶりの山行となりました。朝の内は、雲も多かったですが、集合地の相模湖に着くころには快晴の晴天となりました。

今日登る嵐山は、相模湖を隔てた姿が、京都の嵐山に似ているとのことからこの名がつけられたと言われていています。相模湖からのバスをプレジャーフォレスト前で降り、来月の自然観察会のマイクテストの予行を兼ね案内役となり、登山開始です。しばらくは、雑木林の中のゆるいアップダウンを繰り返し、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、チゴユリ、ヤマルリソウなどの野草を、また、シロダモ、クロモジ、ホウノキなどの新芽などを見ながら進みました。

この山道は、一昨年の台風による被害で通行止めになっていましたが、修復され、一か所程、倒木をくぐるような所がありましたが、あと二か所程はう回路を巻くように通過しました。

残り三分の一程になり、登りがきつくなります。TVの中継塔が見え始める最後の登りとなるあたりに、白い穂状の花が見え、近づくとウワミズサクラとわかりました。

ほどなくして、頂上です。眼下には、新緑に囲まれた相模湖が映え、石老山や大菩薩方面の眺望が楽しめました。恒例の全員集合の写真撮影後、各自距離を取り昼食となりました。



↑ 嵐山山頂

下山は、相模ダムへ向け、ひたすら下ります。下り道は、北に向いており、スギ、ヒノキの植林地が主で、下層植生はあまり見られませんでした。下の道に出てから、発電所を眼下に見ながら、ダムの堰堤を渡り、解散となりました。急ぎでない人は、相模湖公園により、山々の新緑や湖面に映るそれを十分に楽しみ、本日の山行は終了となりました。

新緑の中、晴天に恵まれ、久しぶりの快い山行となりました。(記：渡邊正敏)

コースタイム：プレジャーフォレスト BS(10:50)～(12:30)嵐山(13:18)～(13:52)相模湖ダム

参加者：森武昭、石村日満子、森静子、関口由美子、田島剛、葉上徹郎、富岡一郎、中島良行、吉澤平治、國清喜美子、細川治子、稲垣哲郎、大字進、丸山さかえ、藤川智恵子、渡邊正敏 以上16名

役員会報告

4月役員会

日時：令和3年4月15日(木)：19:00～20:50

場所：かながわ県民センター602会議室

出席者：込田支部長、永井事務局長、落合

監事：砂田

オンラインでの出席者：早川副支部、森、長島、植木、渡辺、葉上

委任状による出席：大槻副支部長、田

島、青木、田中、柴山

[報告事項]

- (1) 会員異動
支部退会 10507 松原尚之
- (2) 第10回指導者育成講習会
4/3・4/4に小諸市で実施。当支部からは、石川千嘉、中山茂樹の2名が参加。4/3の「山の天気」の講演会はWEBでも公開した。
- (3) 山行報告
・3/27 山岳誌プロジェクトHコース、上野原駅=奥牧野～大平山～綱子峠～入道山～平野峠～平野山～天神峠～舟山～峰山～やまなみ温泉 BS=藤野駅を実施。参加者8名。
・4/10に山岳誌プロジェクトLコースとして、相模湖駅=プレジャーフォレスト BS～嵐山～相模湖公園～相模湖駅を実施。参加者は16名。
- (4) その他
・永井より、ウインドブレーカー購入の今年度分19,800円の支払いを完了した旨の報告があった。
・永井より、4/6に開催された県岳連の理事会についての報告があった。

[審議事項]

- (1) 年間計画
・年間計画を確認した。新たに加えた事項はなし。
- (2) 山行計画：
・4/24に山岳誌プロジェクトHコースとして、本厚木駅北口=三叉路 BS～高畑山～松小屋ノ頭～本間ノ頭～丹沢三峰～丹沢山～竜ヶ馬場～塔ノ岳～堀山の家～大倉 BSを実施予定。留守本部は大槻と渡辺が担当。
・5/1に相模川左岸を散策する自然観察会を実施予定。留守本部は長島と葉上が担当。
・5/8に山岳誌プロジェクトLコースとして、小田原駅=国有林前 BS～台ヶ岳～県道734号線～県道733号線～小塚山～小塚 BS～碓氷峠～宮城野 BS=箱根湯本駅を実施予定。留守本部は別途依頼することにした。
・5/29に山岳誌プロジェクトHコース

として、相模湖駅=プレジャーフォレスト BS～大明神展望台～石老山～高塚山～石老山～牧馬峠～石砂山～城山(伏馬田城跡)～伏馬田入口 BS(バス)=三ヶ木 BS(バス)=JR橋本駅を実施予定。留守本部は次回決める。

- (3) その他
・永井より、5/22に開催する支部総会の資料について説明。なお、支部総会は県民センターで開催するが、コロナの感染状況により会議室が使用できない場合には昨年度と同様に書面決議に変更することにした。
・葉上より、4/10に開催された山岳古道プロジェクト会議の内容について説明があった。全体で206件の提案があり、今後漸次120件に絞っていく予定。
・コロナウイルスの感染が拡大し、神奈川県にも「まんえん防止等重点措置」が適用され、自粛生活が強く求められていることを考慮し、措置が解消されるまで、支部主催の山行は中止することを確認。したがって、(2)の山行計画は、方針に沿って見直すことにした。
・南関東三支部合同山行に関しては、10/30を予定しているが、コロナの感染状況を考慮して開催の可否を2ヶ月前までに決定することとし、この方針を東京多摩・埼玉の両支部に伝えることにした。
・全国支部懇談会についても来年実施できるかを今年の10月を目途に判断することにした。
・永井より、県岳連の県岳連証と代議員会の資料について説明があった。

5月役員会

日時：令和3年5月20日(木)：19:00～20:15

場所：かながわ県民センター602会議室

出席者：込田支部長、永井事務局長、落合、田島、植木、長島、葉上

オンライン出席：早川副支部長、森、渡辺

オンラインで出席の監事：砂田、富岡

委任状による出席：大槻、青木

[報告事項]

(1) 山岳への掲載記事

永井より、「山岳」に掲載する支部活動報告の内容について説明があった。

[審議事項]

(1) 年間計画

・年間計画を確認した。新たな事項なし。

(2) 山行計画

神奈川県に発出されている「まんえん防止等重点措置」が5月末に解除された場合には、6月に以下の3つの山行を実施することにした。

・6/12に山北の浅間山・丸山と谷峨の城山(山岳誌L)

・6/19に丹沢三峰(宮ヶ瀬～三峰～丹沢山～塔ヶ岳～大倉)(山岳誌H)

・6/26に石老山・石砂山(山岳誌H))
留守本部は実施が決まった段階で別途依頼する。

(3) その他

・永井より、5/22に開催する支部総会の準備状況について説明があった。在籍者149名、委任状・書面決議を含めた出席予定者は82名で過半数を超えていることを確認した。なお、会場の県民センター会議室は使用できることが確認されたので、通常通りの開催とする。

・葉上より、山岳古道プロジェクトについて説明があった。全体で206件の推薦があり、第1次候補として59件が選定された。当支部では、大山修験道・箱根旧街道・足柄古道の3件が選ばれている。今後、調査を実施するための支部内での実施体制について検討することにした。

・永井より、全国支部懇談会の会場に予定している横浜市「上郷森の家」の設備などについて説明があった。団体予約は1年前からなので開催の可否を10月には決める必要がある。

・7月に発行予定の支部報第19号の内容について意見交換した。

山行報告担当 12月披露山:永井、3月峰山:田島、4月嵐山:渡辺

6月役員会

日時:令和3年6月18日(金):19:00~20:20

場所:かながわ県民センター705会議室

出席者:込田支部長、永井事務局長、落合、葉上、廣岡

オンラインでの出席者:大槻副支部長、早川副支部長、森、長島、植木、渡辺
オンラインで出席の監事:砂田

委任状による出席:田島、柴山、青木

[報告事項]

(1) 会員異動(資料3-2)

先月に口頭で報告済みであるが、下記2件を資料で確認した。

支部退会:15901 畠山 政大

逝去による退会:4012 大島 輝夫

(2) 支部総会議事録

永井より、5/22に開催された支部総会の議事録について説明があった。

5/27に本部へ提出済み。

[審議事項]

(1) 年間計画

「まんえん防止等重点措置」が7/11まで延長されたため、支部山行は解除されるまで実施しないことを確認した。

(2) 山行計画

上記の方針にしたがって、6/26と7/10に計画していたプロジェクトHコースの山行は中止することにした。

(3) 全国支部懇談会

永井より、会場に予定している「上郷森の家」とメールで情報交換した内容の説明があった。意見交換の結果、以下の点を確認した。

「コロナ感染が終息していることを前提として、2022年10月8・9日、9・10日、15・16日のいずれかで予約する。その際、キャンセルの条件・食事の際の酒の持ち込みについて確認しておく。予約人数は貸し切りとし、実際には申し込み状況などを考慮して柔軟に対応する。」

(4) 南関東3支部懇談会について

永井より、懇親山行の原案を提案された。今後さらに詳細を詰めていくことにした。

(5) その他

支部報の発行は7月上旬を予定。

今後の予定 役員会

7月15日(木) 19時～ 県民センター709
8月 なし
9月16日(金) 19時～ 県民センター702

山行計画

かながわ山岳誌プロジェクト

当面中止

支部会員動静

《支部退会》

4012 大島輝夫 (3月17日逝去)
10507 松原尚之 (無所属へ)
11963 鶴田泰子 (JAC退会)
15901 畠山政大 (JAC退会)

追悼「大島輝夫氏訃報」を受けて

5805 野田憲一郎



大島輝夫氏(会員番号4012)は3月17日多臓器不全で逝去されました。行年94歳。ご冥福をお祈りいたします。

氏は我が国の登山界の大先輩である大島堅三氏の四男で旧制神戸第一中学校(現在の神戸高校)在学中から登山を始め、大阪大学理学部の学生だったとき徳永篤司氏(第3次マナスル隊員)と冬の遠見小屋で出会ったことから1949年に新制大阪大学の山岳会を二人で立ち上げ、同じ年、4月に雨飾山南尾根の初登攀を記録しています。JAC入会は1952年、1987～90年には評議員、常任評議員を務めています。

神奈川支部では創立総会などにも出席し、かながわ山岳誌プロジェクトにも関心を寄せておられました。

数年前まで「化学品安全管理研究所」を主宰、化学品輸出入の認証手続きやJICAによる途上国の化学品安全管理制度設計の指導に取り組んでおられました。

蔵書家でもあり、年次晩餐会の図書交換会では古い洋書を何冊も収集しておられました。中には希覯本があるのではないかとわれ、JACの図書委員会で調査する予定になっています。

あとがき

今月号から和田誠一氏の「丹沢周辺の渡来人の足跡」の連載が始まった。今よりずっと国際的であった当時に想いを馳せることができこれからの展開が非常に楽しみである。

随分前から山への禁断症状がでていたが先日、ようやくワクチン接種を受けてきた。一日も早く禁断症状から抜け出し、楽しい山行ができる日がくることを祈るばかりである。(は)

発行：日本山岳会神奈川支部 支部長：込田伸夫

編集者：田島剛、永井泰樹、長島泰博、葉上徹郎

令和3年7月1日